# カメラを向けて 初めて気づいた。両親が お互いを 思い合っているということ。

## 母、87歳、認知症。父、95歳、初めての家事。

広島県呉市。この街で生まれ育った「私」（監督・信友直子）は、ドキュメンタリー制作に携わるテレビディレクター。18歳で大学進学のために上京して以来、40年近く東京暮らしを続けている。結婚もせず仕事に没頭するひとり娘を、両親は遠くから静かに見守っている。

そんな「私」に45歳の時、乳がんが見つかる。めそめそしてばかりの娘を、ユーモアたっぷりの愛情で支える母。母の助けで人生最大の危機を乗り越えた「私」は、父と母の記録を撮り始める。だが、ファインダーを通し、「私」は少しずつ母の変化に気づき始めた…

病気に直面し苦悩する母。95歳で初めてリンゴの皮をむく父。仕事を捨て実家に帰る決心がつかず揺れる「私」に父は言う。「（介護は）わしがやる。あんたはあんたの仕事をせい」。そして「私」は、両親の記録を撮ることが自分の使命だと思い始め――

## 大反響のテレビドキュメンタリー、待望の映画化。

娘である「私」の視点から、認知症の患者を抱えた家族の内側を丹念に描いたドキュメンタリー。2016年9月にフジテレビ／関西テレビ「Mr.サンデー」で2週にわたり特集され、大反響を呼んだ。その後、継続取材を行い、2017年10月にBSフジで放送されると、視聴者から再放送の希望が殺到。本作は、その番組をもとに、追加取材と再編集を行った完全版である。娘として手をさしのべつつも、制作者としてのまなざしを愛する両親にまっすぐに向けた意欲作。

港町呉は坂の多い町でもあります。買い物するにも一苦労。結婚以来、父と母はずっとここで暮らしてきました。

ひとり娘
ドキュメンタリー監督
**信友直子**

1961年広島県呉市生まれ。東京大学卒業。在京キー局で数多くのドキュメンタリー番組を手掛ける。放送文化基金賞奨励賞、ニューヨークフェスティバル銀賞、ギャラクシー賞奨励賞など受賞多数。

涙涙。椅子から立てないくらいの衝撃でした。（56歳女性）

いまだに涙がとまりません。思いやりが人生を豊かにすること。忘れずに生きていきたいです。（49歳女性）

まるでお家にお邪魔しているように。心がキューっと苦しくなったり、ぽっ、と心が温かくなったり。（29歳女性）

お三方の声のなんと優しいこと。こんな優しさに満ちた声の響きを聞いたことはありませんでした。（74歳男性）

番組にいただいた感想の一部です

考えさせられます。夫婦とは家族とは老いるとは…娘さんの泣きながらの撮影にもらい泣きしました。（55歳女性）

ドキュメンタリー映画

# ぼけますから、よろしくお願いします。

主 催：日光市・上都賀郡市医師会　　協 力：日光劇場